

平成30年度 倉敷市生物多様性審議会 第1回会議 議事録（要旨）

1 日時

平成30年11月29日 13時30分～15時00分

2 場所

倉敷市役所2階 207会議室

3 出席者

【委員】9名

井上委員、片岡委員、河邊委員、木村委員、小橋委員、小林委員、洲脇委員、藤原委員、山口委員

【事務局】9名

環境リサイクル局 黒田局長

環境政策部 清水部長、佐藤次長

環境政策課 行武課長補佐

環境管理係 藤井係長

自然保護係 岡本係長、多田技師

環境学習センター 渡邊所長

自然史博物館 小野館長

4 欠席者

【委員】3名

青江委員、阪田委員、清水委員

5 傍聴者 0名

6 報道関係 0社

7 次第

1 開会・あいさつ

2 議事

(1) 倉敷市生物多様性地域戦略実施事業の進捗について

(2) 戦略の短期的目標年次2020年度に向けて

3 その他

4 閉会

5 添付資料

資料1 委員名簿

資料2 倉敷市生物多様性地域戦略（実施事業計画表）

資料3 倉敷市生物多様性地域戦略（説明スライド）

1 議事要旨

事務局	(議事(1) 倉敷市生物多様性地域戦略実施事業の進捗について説明)
委員	<p>特定外来生物の防除個体数について。個体数が減ってくると捕獲しにくくなるが、そこで防除の手を緩めるとまた増えてしまう。防除個体数が指標として適切かどうか、評価する時期が来ているのではないか。</p> <p>また、自然を大切だと感じている子どもは増えているが、自然とふれあったり、自然を楽しんでいる子どもは減っている。これを解決するためには、子どもに体験をさせる取り組みが必要と思うが、市では対策を考えているのか。</p>
事務局	<p>自然保護係では公民館やライフパークと連携して、子どもの体験の場づくりに努めてきた。しかし、公民館活動などの授業外で取り組みには限界も感じているので、今後は学校の授業内で啓発ができるかどうか検討している。</p> <p>環境学習センターでは講座やエコサマースクールを通じて、身近な自然へのきっかけ作りをしている。学校への広報として、チラシの配布や校長会での宣伝をしている。</p>
委員	<p>公民館の活動の中で、年配の人が自身の自然体験を子どもに伝えることも啓発につながる。市民学習センターでは火打石体験をしており、そういった体験の機会を作っていけば啓発につながっていくと思う。</p>
委員	<p>自然史博物館友の会では会員が減少しており、その要因には少子化の他にも親が共働きで忙しいことも考えられる。気軽に参加できる観察会にはたくさんの子どもが集まるので、忙しい中でも自然体験への要望があるのだと思う。重要なのは幼児期の日頃の自然体験だが、幼稚園や保育園の先生は博物館や専門家への相談は敷居が高いと思っている様子。そういった相談をとりつなぐ仕組みづくりが必要。</p>
会長	<p>若い世代に自然の大切さを伝えるために、環境学習センターや自然史博物館以外にも、教育委員会など色々な部署が連携して啓発に取り組んでどうか。</p>
委員	<p>小学校低学年向けの取り組みは大変かもしれないが、農業団体で行なっ</p>



委員	<p>ている親子農業体験では、カボチャや桃などの収穫体験を通じて、地域とのコミュニケーションを図っている。</p> <p>先程出た外来種の話では、子どもはジャンボタニシのピンク色の卵に興味を持つので、駆除などをどのように説明してよいか迷うことがある。</p> <p>岡山県では出前講座を利用するための仕組みづくりができています。環境学習に取り組む際の学校の先生の負担が少なく、講師も子どもに直接教えることができるため、好評である。倉敷市でも環境学習センターが学校や市民からの相談に対応できる仕組みづくりが必要。</p> <p>自然環境調査は予算などの都合で新たな実施は難しいかもしれないが、まずは既にある文献をまとめることも大切。市は平成10～12年度に各小学校区で身近な自然調査をしており、この様な調査を小学生対象に行なえば体験と調査を同時にできる。</p>
会長	<p>市民の皆様は自然体験に関する相談先や支援先を知らないこともあるので、市は関係部署が連携して対応して欲しい。</p> <p>また、過去の文献も重要であり、それから10年20年後にどうなったのかという調査も重要。</p>
事務局	<p>(議事(2) 戦略の短期的目標年次2020年度に向けての説明)</p>
委員	<p>短期目標である2020年が近づいていることを受けて、生物多様性の現状と課題を評価するために、私の調べられる範囲で倉敷市の自然に関する数値情報について資料を作ってみた。耕地が650ha、および森林が54ha減少しており、宅地等690ha増加し、市域面積が91ha増えている。森林面積の減少は少ないが、水産業では漁獲量が激減しており、驚いた。生物種などの個別の情報は、委員の皆様が知っている情報を今後持ち寄ることで、戦略を見直す際の倉敷市の生物多様性の評価につながると思う。</p>
会長	<p>生物多様性国家戦略が2012年に改定されてから、倉敷市は早い段階で戦略の策定に取り組んだ。良い戦略ができたと思うが、子どもへの啓発など市の関係部署が連携して取り組んでいく必要がある。戦略の見直しのとりかかりとして、委員の皆様の意見を伺っていきたい。</p>
事務局	<p>既存の調査結果を活用することで良い資料ができることを再認識した。委員の皆様の専門分野について情報提供をいただくことで、評価のための</p>


委員	<p>資料集めに取り組みたい。</p> <p>また、戦略の策定に関わった委員の皆様は、当時の様子を伺いたいのですが。</p> <p>策定時の意見として、希少種や外来種の調査だけでなく、普通種の調査も必要だという意見があった。タンポポ調査やセミの抜け殻調査は全国的に行なわれており、倉敷市の子どもも関わっていると思う。私が関わっている取り組みの中では、幼稚園や保育園以下の子どもを対象に、子育て支援として自然あそびを実施している。自然を慈しむ感性を持った親子を増やそうということで、策定時にも提言させていただいた。</p>
委員	<p>水田の耕作放棄によってため池が管理されなくなり、ヌートリアにとって住みやすい環境になっている。それが原因で、ヌートリアが穴を掘ってため池が壊れた事例がある。ため池に関わっている部署に聞けば、実際に管理されているため池のデータを集められるのではないかと。</p> <p>また、昔は普通にいた生き物が減っている。岡山県内では身近な場所に二枚貝が生息しているが、県外では今や二枚貝は希少な生き物になっているので、岡山県内での普通種の保全が重要だと思う。</p>
委員	<p>若い世代を自然の中に連れ出す方法のひとつに、海辺での魚介類の採取がある。子どもはカニや小魚で楽しみ、親はワカメなどを採ることを通じて、海岸を保全することの大切さを伝えている。そういった経験をした人の中には、近所の人などを誘って自分で海に行くようになった人もいます。魚介類の採取となると市の取り組みとしては難しいかもしれないが、人を集めるということでは有効な手段だと思う。</p>
会長	<p>色々な人を巻き込んで、生物多様性の保護や調査に役立つようなことを戦略に盛り込んでいきたい。</p>
委員	<p>先程話が出た漁獲量の減少について。水島の工業地域ができて、海が変化したり、地元の若者の就職先が変わった。漁獲量の低下には、漁業従事者が減っていることも関係しているかもしれない。また、魚種によって増減の傾向が違うのかもしれないが、特にイカナゴはかつて海砂の採取した後減ったように思う。</p>
委員	<p>データはなくても、先程のように自身の経験を記録として残すことも、</p>



委員	<p>環境の評価につながるのと思う。漁獲量の低下と漁業従事者の関係はまだ比較できていないので、今回の資料は参考ということで。</p> <p>自然の変化の背景を探ることの大切さに同感である。太陽光パネル設置による山林の乱開発の問題が岡山県の審議会でも話題に上がったが、兵庫県では太陽光パネル施設の設置に対する条例ができたので、今、業者が岡山県に流れてきている。脱原発のエネルギー政策に必要なことではあるが、そういった背景もある。</p>
会長	<p>次回の審議会でも、戦略の評価や見直しに向けた話し合いをしていきたいと思う。環境部局だけでは生物多様性は推進できないと思うので、今後は他部署との連携を更に強化して欲しい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

議事録承認

会 長

河邊誠一郎 

署名委員

片岡博行 